

## 事業報告書（令和7年度）

事業名 SDGs に資する里山の再生事業～南海トラフ地震対策にむけて（10）団体名 就実・森の学校担当者名 石田省三

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）				
年間を通して防災協定を締結している周辺町内会からの避難経路、避難地の整備点検を実施。以下に令和7年度の主な活動を列挙する。			参加者合計 <b>1, 229</b> 名	
① 4月16日	春を訪ねて（1）	こども園	42	里山散策・植物観察
② 4月19日	定例マツ林整備	森の学校	10	マツ林整備
③ 4月24日	自然観察	小学生	60	軽登山、植物観察
④ 4月27日	里山レンジャー交流会	小学生	18	軽登山、里山体験
⑤ 5月12日	竹細工講座	短大生	75	竹細工3種
⑥ 5月24日	定例マツ林整備	森の学校	9	マツ林整備
⑦ 5月25日	総合歴史古墳巡り	大学生	25	校内古墳・金蔵山古墳
⑧ 6月9日	竹林観察	こども園	40	竹の伸長観察
⑨ 6月22日	第36回グリーンボランティア	一般	11	コバノミツバツツジ増殖
⑩ 7月11日	竹から始まる未来創造活動	中学生	50	竹材加工体験
⑪ 8月18日	竹伐採	高校生	80	体育祭利用の竹材採取
⑫ 9月6日	目指せ防災博士	小・中	15	防災訓練（竜操消防署）
⑬ 9月14日	里山愛好会（1）	小学生	15	防災訓練（富山消防団）
⑭ 9月30日	秋の里山体験	小学生	60	どんぐり拾い
⑮ 10月17日	サトウキビ体験	こども園	60	栽培からサトウキビ絞りまで
⑯ 10月29日	秋の山の学校（小学校3年）	小学生	60	野外炊飯体験
⑰ 10月30日	秋の里山散策	こども園	35	年少組（どんぐり拾い）
⑱ 11月3日	第37回グリーンボランティア	中高大	78	アカマツ林整備
⑲ 11月23日	第38回グリーンボランティア	中高大	57	アカマツ林整備
⑳ 11月29日	リース作り体験	一般	15	里山センターと合同開催
㉑ 12月11日	竹から始まる未来創造活動	中学生	50	11, 12日の2日開催
㉒ 12月14日	リース作り体験	一般	20	操山里山愛好会②
㉓ 1月14日	とんど焼	小学生	60	年中行事を体験（3年生）
㉔ 1月16日	冬の里山散策	幼稚園	84	津島幼稚園
㉕ 1月18日	シイタケ植菌体験	一般	20	炭焼き・操山里山愛好会③
㉖ 2月3日	七輪体験	小学生	60	小学校3年生（社会科）
㉗ 2月15日	シイタケ植菌体験	一般	15	里山散策・里山レンジャー
㉘ 2月21日	土曜日講座	高校生	15	炭焼き・シイタケ植菌体験
㉙ 2月26日	冬の里山散策	こども園	60	年長組
㊀ 3月8日	TSC 里山ウオーク	一般	30	アカマツ林整備椎茸植菌体験

2. ESD の視点
① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか
<p>本年度は、持続可能な地域社会の実現を目指し、「防災」活動を中心課題とし、その他「里山環境の保全・活用」など里山関連活動を 30 回実施し、参加総数は 1,229 名になる予定である。参加者は幼児から高齢者まで幅広く、地域住民の里山への意識啓発と行動変容を促すことができたと思っている。</p> <p><b>主な取り組みと SDGs との関連</b></p> <p>【目標 11：住み続けられるまちづくりを】 防災意識の向上と地域の防災力強化</p> <p>南海トラフ地震への備えとして、避難経路の点検整備や、竹炭・木炭の焼成・備蓄を継続的に実施。また、炊事設備の改善や避難用テント（6 基）の補修（横幕の設置）等を行い、より安全で衛生的な避難環境を整備した。（令和 8 年度中には新しい施設を整備する計画を進めている）</p> <p>【目標 13：気候変動に具体的な対策を】 アカマツ林の再生と CO<sub>2</sub>吸収量の調査</p> <p>松くい虫被害で失われたアカマツ林の再生に取り組み、昨年は岡山県の「二酸化炭素森林吸収評価認定制度」に基づき、植林したアカマツの CO<sub>2</sub>吸収量を調査研究した。今後はこの成果に基づき研究を進め、アカマツの生育状況と CO<sub>2</sub> 吸収量を継続的に調べていくことにした。このような活動は中高生が気候変動と森林の関係性を学ぶ機会となり、環境意識の醸成に寄与することになると考える。</p> <p>【目標 15：陸の豊かさを守ろう】 里山環境の保全と多世代交流</p> <p>13 年前から始めたアカマツ林の再生活動（グリーンボランティア）には毎年 150 人近い生徒・学生が参加する。このボランティア活動は単に整備するというだけでなく、自然観察や、地域の自然資源の価値を再認識する機会にもなっている。「都市の近くにこんな自然があるとは」との声も多く、参加者の多くが継続的にイベントに参加するようになり、自然との共生を意識した行動変容のきっかけとなった。</p>
② どのように学び合いを取り入れたか
<p>本活動は、森の学校の構成員（中・高校生）と地域住民が一体となって活動しているが、複数回の参加者が初めての参加者にそれぞれの活動技術を教え合うようなシステムが出来つつある。こういった学びのサイクルが確立できればと考えている。</p>
③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか
<p>このような自発的な教え合いの関係は、参加者同士の信頼関係を深めるとともに、活動の継続性を支える重要な要素となっている。今後は、このような「学びのサイクル」をさらに確立し、参加者全体が互いに学び合い、支え合う関係性を育んでいくことを目指している。</p>

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

南海トラフ地震への備えとして、10年間にわたり「森の学校」を緊急避難地として地域に開放し、また防災品等の備蓄にも務めてきた。そして、周辺5町内会と防災協定を結び、また、地域と合同の防災訓練を継続的に実施し、一定の成果を上げてきた。しかし防止協定締結から10年が経過した今、地域住民の危機意識は徐々に弱まっているように感じる。今こそ原点に立ち返り防災関連活動を見直す時期に来ていると思っている。来年度は岡山市里山センターと協力した防災行事もより一層充実させるよう計画している。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域のESDの取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

本事業は長期的な視点で進めており、防災意識の向上を目的に継続的に活動している。今後はより一層の防災拠点としての機能強化に務めていきたい。

操山山系を都市の森林公園と位置づけ、多くの市民が散策や防災学習に訪れている。里山の魅力と防災意識の普及を目指し所期の目的に到達したいと考えている。その一方で、近年イノシシ被害が深刻化し、農作物や人体への影響も強く懸念されている。早急な対応と地域ぐるみの対策が求められている。

# ESD活動報告写真集

1. 定期的に実施している避難経路の点検整備記録を収録
2. 里山整備の記録を収録
3. 主な行事の写真を収録

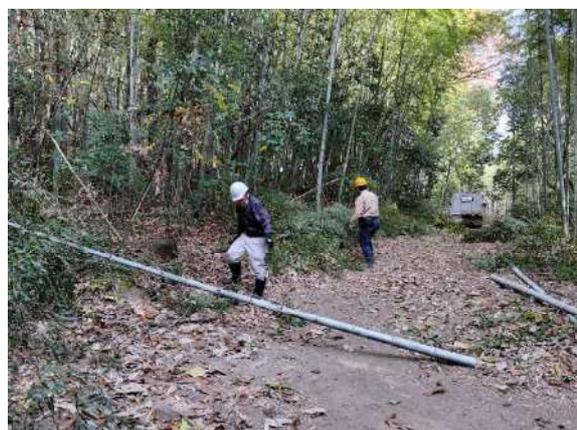
2025

就実・森の学校

(通年実施)

## 里山保全活動 避難経路・排水路の保全活動

森の学校に至る避難経路の整備。竹の処理も大変である



岡辛木神社に至る市道の整備。側溝清掃、倒木の確認除去



## 里山保全活動（通年）

### マツ枯れ対策

アカマツ林の再生を目指し平成23年から4000本のモモタロウ松を植林し、管理している。大きいものは樹高5m、樹径10cmに達している。マツ林の中に枯れマツが散在している。早めに伐採、焼却処分し、被害の拡大防止に努めている。



### ナラ枯れ対策

巨木化したコナラ、アベマキのナラ枯れが進みつつあるため、カシノナガキクイムシの痕跡を調査、対応している。



## ①⑧ 春を訪ねて 4月16日・6月9日

こども園の5歳児が筍の成長の継続観察を行った。4月16日にマーキングした筍（高さ約50cm）だったものが、2か月で約1.2mにまで成長しており、その成長の早さに驚いていた。この日は竹と木の違いなどを学習して、充実した一日となった。



昨年は高さの確認をした。  
今年はその高さは園児何人分に当たるのかとグラウンドに並び検証。竹の生長のスピードを身をもって体験し、驚いていた。



## ⑦ 校内古墳巡り



2025  
第37回  
第38回

グリーン



# ボランティア募集

## 就実・森の学校



『おじいさんは山にしば刈りに・・・』里山は、古くから人々の暮らしに寄り添ってきました。しかし今、その結びつきは少しずつ弱くなっています。グリーンボランティアに参加し、里山の魅力と価値を、いま一度見直してみませんか。参加者にはグリーンボランティア証明書を発行します。

森の学校にて 2024.11.23

37回 11月3日 (月)



9:00-13:30

アカマツ林の手入  
(下刈り、除伐、枝打ち)



申込〆切：10月20日

参加申込QRコード

38回 11月23日 (日)



9:00-13:30

里山再生活動  
アカマツ林の手入れ



申込〆切：11月7日

参加申込QRコード

### 集合場所 / 集合時刻

中学高校：中高中庭 (弓之町)  
短大大学：薬学部 (西川原)  
各集合場所 / 8:50 (兼基)

\*移動手段の詳細については  
後日メールで連絡します。

活動会場：岡山市中区今谷「就実・森の学校」

必要物：汚れてもいい服装・タオル・軍手

申込方法：イベント案内のQRコードからお願いします。

昼食：主催者側で用意します。

雨天等で中止の場合は当日の7時までに  
メール等で連絡します。



就実学園森林研修センター  
主催：就実・森の学校

事務局：岡山市中区西川原1-6-1  
連絡先：石田省三 携帯:090-7890-2235

## ⑨ 第36回グリーンボランティア6月22日

今年はアカマツの林縁を紫に染めるコバノミツバツツジの増殖活動を実施



集合写真



アカマツとコバノミツバツツジの関係を説明



採取方法の説明



採取



2種の培地に挿し木



パーライトに挿し木



竹林で密閉栽培



移植を待つ苗木

## ⑩ 竹から始まる未来創造活動（中一・通年）

就実中学校未来創造コースでは12月まで4回にわたり竹を中心とした探究活動を展開している。今年は日程の関係で、（1）中学校での竹加工実習（2）文化祭での探求活動発表（3）森の学校での竹伐採、および加工工場への搬出作業実習（昨年から真備町の家具製造業 **TEORI**に出荷）



## ⑩-2 竹から始まる未来創造活動



### ⑩-3 竹から始まる未来創造活動



## ⑫ 目指せ防災博士 (岡山市里山センターと協働事業)



# ⑬ 富山消防団指導による防災訓練



**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS**

**未来につなぐ 里山ワークショップ in 操山**

「里山の暮らしを体験しよう」をテーマに、里山の暮らしや自然の大切さを学び、未来につなぐワークショップを開催します。里山の暮らしや自然の大切さを学び、未来につなぐワークショップを開催します。

**12月14日(日)**  
 里山体験 - 正月に向けて

**9月14日(日)**  
 里山体験 - 里山の暮らしを学ぶために

**1月18日(日)**  
 里山体験 - 里山の暮らしを学ぶために

開催日時：9月14日、12月14日、1月18日  
 会場：福井県福井市 福井市立操山公民館  
 定員：30名  
 参加費：大人500円、小学生以下は保護者同伴  
 申込：福井県福井市 福井市立操山公民館  
 イベント申し込みフォームより  
 イベント申し込みフォームより  
 イベント申し込みフォームより

主催：操山里山愛好会

# ⑱第37回グリーンボランティア 11月3日



集合写真



下刈り



下刈り (2班)



枯死したアカマツの伐採



マツクイムシにより枯死したアカマツは焼却処分が必要

# ①9 第38回 グリーンボランティア 11月23日



集合写真



マツ葉の採取



今年は山火事が多かった。松は脂分が多く燃えやすいので松葉かきが大切



枯れたマツの処理も大変



今回は特別に山火事防止を呼び掛ける看板を取り付けた。

②① ②② リース作り体験



⑳ 「どんど焼き」体験 小学校3年生 1月14日

